

共通仕様書(農林水産土木工事編)新旧対照表

項	新(平成30年4月1日)					旧(平成29年10月1日)				
第1章総則 第1節 第103条	種別 生育基盤盛土工		確認時期 盛土施工完了時	確認項目 土壌硬度試験	確認の頻度 1回/3,000㎡	種別 (新設)		確認時期 (新設)	確認項目 (新設)	確認の頻度 (新設)
			確認時期 (新設)	確認項目 現場透水試験	確認の頻度 1回/3,000㎡			確認時期 (新設)	確認項目 (新設)	確認の頻度 (新設)
	舗装工	下層路盤	プルーフローリング実施時	路盤のたわみ	1回/1工事	舗装工	下層路盤	プルーフローリング実施時	路盤のたわみ	1回/1工事
		下層路盤及び上層路盤	施工完了時	基準高、幅、厚さ	(一般) 1回/1工事 (重点) 1回/100m		下層路盤及び上層路盤	施工完了時	基準高、幅、厚さ	(一般) 1回/1工事 (重点) 1回/100m
		路盤、表層、基層	舗設時	使用材料、敷均し締固め状況、天候、気温、舗設温度	(一般) 1回/1工事 (重点) 1回/3,000㎡		路盤、表層、基層	舗設時	使用材料、敷均し締固め状況、天候、気温、舗設温度	(一般) 1回/1工事 (重点) 1回/3,000㎡
	表層安定処理工	置換	掘削完了時	使用材料、幅、延長、置換厚さ	(一般) 1回/1工事 (重点) 1回/100m	表層安定処理工	置換	掘削完了時	使用材料、幅、延長、置換厚さ	(一般) 1回/1工事 (重点) 1回/100m
	矢板工 (仮設を除く)	鋼矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板+(一般) 1回/150枚 (重点)	矢板工 (仮設を除く)	鋼矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板+(一般) 1回/150枚 (重点)
			打込完了時	基準高、変位	1回/100枚			打込完了時	基準高、変位	1回/100枚
		鋼管矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板+(一般) 1回/75枚 (重点)		鋼管矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板+(一般) 1回/75枚 (重点)
			打込完了時	基準高、変位	1回/50枚			打込完了時	基準高、変位	1回/50枚

共通仕様書(農林水産土木工事編)新旧対照表

項	新(平成30年4月1日)	旧(平成29年10月1日)																																
第7章 溪間工 第2節 第705条	<div style="text-align: center;"> </div> <p>注1) 施工者は、会社等の請負法人名のみとする。</p> <p><b>第2節 コンクリートダム</b>  <b>第705条 一般</b>                      コンクリートダムについては、土木工事編Ⅰ第7編第1章第8節「コンクリート堰堤工」によるもののほか次の各号によるものとする。                      (1) 工事着手にあたって、コンクリート打設計画図を作成し監督員の承諾を得ること。                      (2) コンクリートについては、本章によるほか土木工事編Ⅰ第1編第3章「無筋、鉄筋コンクリート」によること。なお、治山ダムのレディーミキストコンクリートについては、下表を標準とする。</p> <p style="text-align: center;">レディーミキストコンクリート標準使用基準</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>コンクリート種別</th> <th>構造物の種類</th> <th>呼び強度(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>スランブ(cm)</th> <th>最大骨材寸法(mm)</th> <th>最小骨材量(kg/m<sup>3</sup>)</th> <th>最大水化比(%)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無筋普通 18-S-40BB</td> <td>治山ダム(本堤、副堤)</td> <td>18</td> <td>8</td> <td>40</td> <td>—</td> <td>60%以下</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>備考) 治山ダムは高炉セメント(B種)を使用するものとする。ただし、寒中コンクリート施工となることが予想される11月1日から翌年3月31日までは、協議のうえ普通ポルトランドセメントの使用を承諾することができる。なお、繰越工事等により前記の期間を超えて施工する場合は、同一のコンクリート種別とすることができる。</p> <p><b>第706条 掘削・埋戻し</b>                      掘削、埋戻しについては、土木工事編Ⅰ第7編第1章1-8-2「作業土工(床掘り・埋戻し)」、1-8-3「埋戻し工」によるもののほか次の各号によるものとする。</p>	コンクリート種別	構造物の種類	呼び強度(N/mm <sup>2</sup> )	スランブ(cm)	最大骨材寸法(mm)	最小骨材量(kg/m <sup>3</sup> )	最大水化比(%)	備考	無筋普通 18-S-40BB	治山ダム(本堤、副堤)	18	8	40	—	60%以下		<div style="text-align: center;"> </div> <p>注1) 施工者は、会社等の請負法人名のみとする。</p> <p><b>第2節 コンクリートダム</b>  <b>第705条 一般</b>                      コンクリートダムについては、土木工事編Ⅰ第7編第1章第8節「コンクリート堰堤工」によるもののほか次の各号によるものとする。                      (1) 工事着手にあたって、コンクリート打設計画図を作成し監督員の承諾を得ること。                      (2) コンクリートについては、本章によるほか土木工事編Ⅰ第1編第3章「無筋、鉄筋コンクリート」によること。なお、治山ダムのレディーミキストコンクリートについては、下表を標準とする。</p> <p style="text-align: center;">レディーミキストコンクリート標準使用基準</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>コンクリート種別</th> <th>構造物の種類</th> <th>呼び強度(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>スランブ(cm)</th> <th>最大骨材寸法(mm)</th> <th>最小骨材量(kg/m<sup>3</sup>)</th> <th>最大水化比(%)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無筋普通 18-S-40BB</td> <td>治山ダム(本堤、副堤)</td> <td>18</td> <td>8</td> <td>40</td> <td>—</td> <td>二</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>備考) 治山ダムは高炉セメント(B種)を使用するものとする。ただし、寒中コンクリート施工となることが予想される11月1日から翌年3月31日までは、協議のうえ普通ポルトランドセメントの使用を承諾することができる。なお、繰越工事等により前記の期間を超えて施工する場合は、同一のコンクリート種別とすることができる。</p> <p><b>第706条 掘削・埋戻し</b>                      掘削、埋戻しについては、土木工事編Ⅰ第7編第1章1-8-2「作業土工(床掘り・埋戻し)」、1-8-3「埋戻し工」によるもののほか次の各号によるものとする。</p>	コンクリート種別	構造物の種類	呼び強度(N/mm <sup>2</sup> )	スランブ(cm)	最大骨材寸法(mm)	最小骨材量(kg/m <sup>3</sup> )	最大水化比(%)	備考	無筋普通 18-S-40BB	治山ダム(本堤、副堤)	18	8	40	—	二	
コンクリート種別	構造物の種類	呼び強度(N/mm <sup>2</sup> )	スランブ(cm)	最大骨材寸法(mm)	最小骨材量(kg/m <sup>3</sup> )	最大水化比(%)	備考																											
無筋普通 18-S-40BB	治山ダム(本堤、副堤)	18	8	40	—	60%以下																												
コンクリート種別	構造物の種類	呼び強度(N/mm <sup>2</sup> )	スランブ(cm)	最大骨材寸法(mm)	最小骨材量(kg/m <sup>3</sup> )	最大水化比(%)	備考																											
無筋普通 18-S-40BB	治山ダム(本堤、副堤)	18	8	40	—	二																												

共通仕様書(農林水産土木工事編)新旧対照表

項	新(平成30年4月1日)	旧(平成29年10月1日)
第14章保安 林整備 第3節 第1417条	<p>1～2 (略)</p> <p>3 受注者は、盛土材料は指定された土質のものを使用しなければならない。なお、特に指定されない場合は、工事の目的に適したものとする。</p> <p><u>具体的には、透水性に優れた砂質土を標準とする。</u>  <u>また、再生資材等を盛土材料として使用する場合は、化学性の分析を事前に行い、植栽木や周辺環境へ与える影響が少ないことを確認した上で使用しなければならない。</u></p> <p>4 (略)</p> <p>5 受注者は、生育基盤盛土工の表層部は、植栽木の根系の発達に影響があることから、過度の締固めを行ってはならない。  <u>造成に使用する機械は接地圧の低い機械を使用して走行回数を極力減らさなければならない。</u>  <u>また、盛土の層数は一層で盛ることを基本とし、軟らかく盛ることに配慮しなければならない。</u></p>	<p>1～2 (略)</p> <p>3 受注者は、盛土材料は指定された土質のものを使用しなければならない。なお、特に指定されない場合は、工事の目的に適したものとする。</p> <p>_____ (新設) _____</p> <p>_____</p> <p>4 (略)</p> <p>5 受注者は、生育基盤盛土工の表層部は、植栽木の根系の発達に影響があることから、過度の締固めを行ってはならない。</p> <p>_____ (新設) _____</p> <p>_____</p>

共通仕様書(農林水産土木工事編)「品質管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(平成30年4月1日)					旧(平成29年10月1日)							
6 森林造成 (生育基盤盛土工)	6 森林造成(生育基盤盛土工)					6 森林造成(生育基盤盛土工)							
工 種	種別	区分	試験項目	試験方法	規 格 値	工 種	種別	区分	試験項目	試験方法	規 格 値		
			生育基盤盛土工	必須	土の粒度試験				設計図書による。	設計図書による。	生育基盤盛土工	必須	土の粒度試験
		必須		土壌pH	設計図書による。			設計図書による。	必須	土壌pH		設計図書による。	設計図書による。
	選択	土壌EC	設計図書による。	設計図書による。	選択		土壌EC	設計図書による。	設計図書による。				
	施工	必須	現場透水試験	植穴式透水試験又は長谷川式簡易現場透水試験	最終減水能 30mm/hr以上		施工	必須	現場透水試験	植穴式透水試験又は長谷川式簡易現場透水試験	最終減水能 30mm/hr以上		
土壌硬度試験			山中式土壌硬度計又は長谷川式土壌貫入計	山中式土壌硬度計：23mm以下 長谷川式土壌貫入計：1.0cm/drop以上	土壌硬度試験	山中式土壌硬度計又は長谷川式土壌硬度計			山中式土壌硬度計：23mm以下 長谷川式土壌硬度計：1.0cm/drop以上				

共通仕様書(農林水産土木工事編)「品質管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(平成30年4月1日)	旧(平成29年10月1日)																								
<p>6 森林造成 (生育基盤盛土工)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="315 300 728 347">試験基準</th> <th data-bbox="728 300 1144 347">摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="315 347 728 427">設計図書による。</td> <td data-bbox="728 347 1144 427"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="315 427 728 507">設計図書による。</td> <td data-bbox="728 427 1144 507"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="315 507 728 587">設計図書による。</td> <td data-bbox="728 507 1144 587">塩類障害が懸念される材料を使用する場合に測定する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="315 587 728 691">原則として、盛土の完了時に行う。<u>測定</u>は、2,500m<sup>2</sup>につき1地点で行う。施工状況等により必要に応じ試験回数を増減する。</td> <td data-bbox="728 587 1144 691"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="315 691 728 1058">同上</td> <td data-bbox="728 691 1144 1058"> <p>山中式土壌硬度計で測定する場合は、高さ50cmごとを標準とする。                      長谷川式<u>土壌貫入計</u>で測定する場合は、地表面から深さ1m連続して測定を行う。規格値以下であってもすべてを固結層と判断するのではなく、<u>樹種によって次のように固結層と判断する。</u>                      ①クロマツ以外の樹種(クロマツとの混植を含む)                      0.7cm/drop以下が5cm以上、あるいは1.0cm/drop以下が10cm以上鉛直方向に連続した場合                      ②クロマツ                      0.7cm/drop以下が10cm以上鉛直方向に連続した場合</p> </td> </tr> </tbody> </table>	試験基準	摘要	設計図書による。		設計図書による。		設計図書による。	塩類障害が懸念される材料を使用する場合に測定する。	原則として、盛土の完了時に行う。 <u>測定</u> は、2,500m <sup>2</sup> につき1地点で行う。施工状況等により必要に応じ試験回数を増減する。		同上	<p>山中式土壌硬度計で測定する場合は、高さ50cmごとを標準とする。                      長谷川式<u>土壌貫入計</u>で測定する場合は、地表面から深さ1m連続して測定を行う。規格値以下であってもすべてを固結層と判断するのではなく、<u>樹種によって次のように固結層と判断する。</u>                      ①クロマツ以外の樹種(クロマツとの混植を含む)                      0.7cm/drop以下が5cm以上、あるいは1.0cm/drop以下が10cm以上鉛直方向に連続した場合                      ②クロマツ                      0.7cm/drop以下が10cm以上鉛直方向に連続した場合</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1200 300 1612 347">試験基準</th> <th data-bbox="1612 300 2029 347">摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1200 347 1612 427">設計図書による。</td> <td data-bbox="1612 347 2029 427"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1200 427 1612 507">設計図書による。</td> <td data-bbox="1612 427 2029 507"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1200 507 1612 587">設計図書による。</td> <td data-bbox="1612 507 2029 587">塩類障害が懸念される材料を使用する場合に測定する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1200 587 1612 691">原則として、盛土の完了時に行う。<u>検査</u>は、2,500m<sup>2</sup>につき1地点で行う。施工状況等により必要に応じ試験回数を増減する。</td> <td data-bbox="1612 587 2029 691"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1200 691 1612 1058">同上</td> <td data-bbox="1612 691 2029 1058"> <p>山中式土壌硬度計で測定する場合は、高さ50cmごとを標準とする。                      長谷川式<u>土壌硬度計</u>で測定する場合は、地表面から深さ1m連続して測定を行う。規格値以下であってもすべてを固結層と判断するのではなく、</p> <hr/> <p style="text-align: center;">(新設)</p> <hr/> </td> </tr> </tbody> </table>	試験基準	摘要	設計図書による。		設計図書による。		設計図書による。	塩類障害が懸念される材料を使用する場合に測定する。	原則として、盛土の完了時に行う。 <u>検査</u> は、2,500m <sup>2</sup> につき1地点で行う。施工状況等により必要に応じ試験回数を増減する。		同上	<p>山中式土壌硬度計で測定する場合は、高さ50cmごとを標準とする。                      長谷川式<u>土壌硬度計</u>で測定する場合は、地表面から深さ1m連続して測定を行う。規格値以下であってもすべてを固結層と判断するのではなく、</p> <hr/> <p style="text-align: center;">(新設)</p> <hr/>
試験基準	摘要																									
設計図書による。																										
設計図書による。																										
設計図書による。	塩類障害が懸念される材料を使用する場合に測定する。																									
原則として、盛土の完了時に行う。 <u>測定</u> は、2,500m <sup>2</sup> につき1地点で行う。施工状況等により必要に応じ試験回数を増減する。																										
同上	<p>山中式土壌硬度計で測定する場合は、高さ50cmごとを標準とする。                      長谷川式<u>土壌貫入計</u>で測定する場合は、地表面から深さ1m連続して測定を行う。規格値以下であってもすべてを固結層と判断するのではなく、<u>樹種によって次のように固結層と判断する。</u>                      ①クロマツ以外の樹種(クロマツとの混植を含む)                      0.7cm/drop以下が5cm以上、あるいは1.0cm/drop以下が10cm以上鉛直方向に連続した場合                      ②クロマツ                      0.7cm/drop以下が10cm以上鉛直方向に連続した場合</p>																									
試験基準	摘要																									
設計図書による。																										
設計図書による。																										
設計図書による。	塩類障害が懸念される材料を使用する場合に測定する。																									
原則として、盛土の完了時に行う。 <u>検査</u> は、2,500m <sup>2</sup> につき1地点で行う。施工状況等により必要に応じ試験回数を増減する。																										
同上	<p>山中式土壌硬度計で測定する場合は、高さ50cmごとを標準とする。                      長谷川式<u>土壌硬度計</u>で測定する場合は、地表面から深さ1m連続して測定を行う。規格値以下であってもすべてを固結層と判断するのではなく、</p> <hr/> <p style="text-align: center;">(新設)</p> <hr/>																									